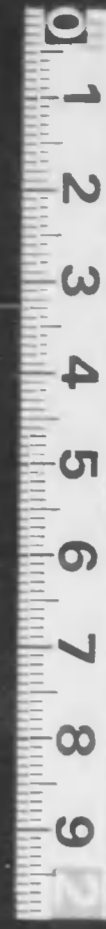


週寫眞
報

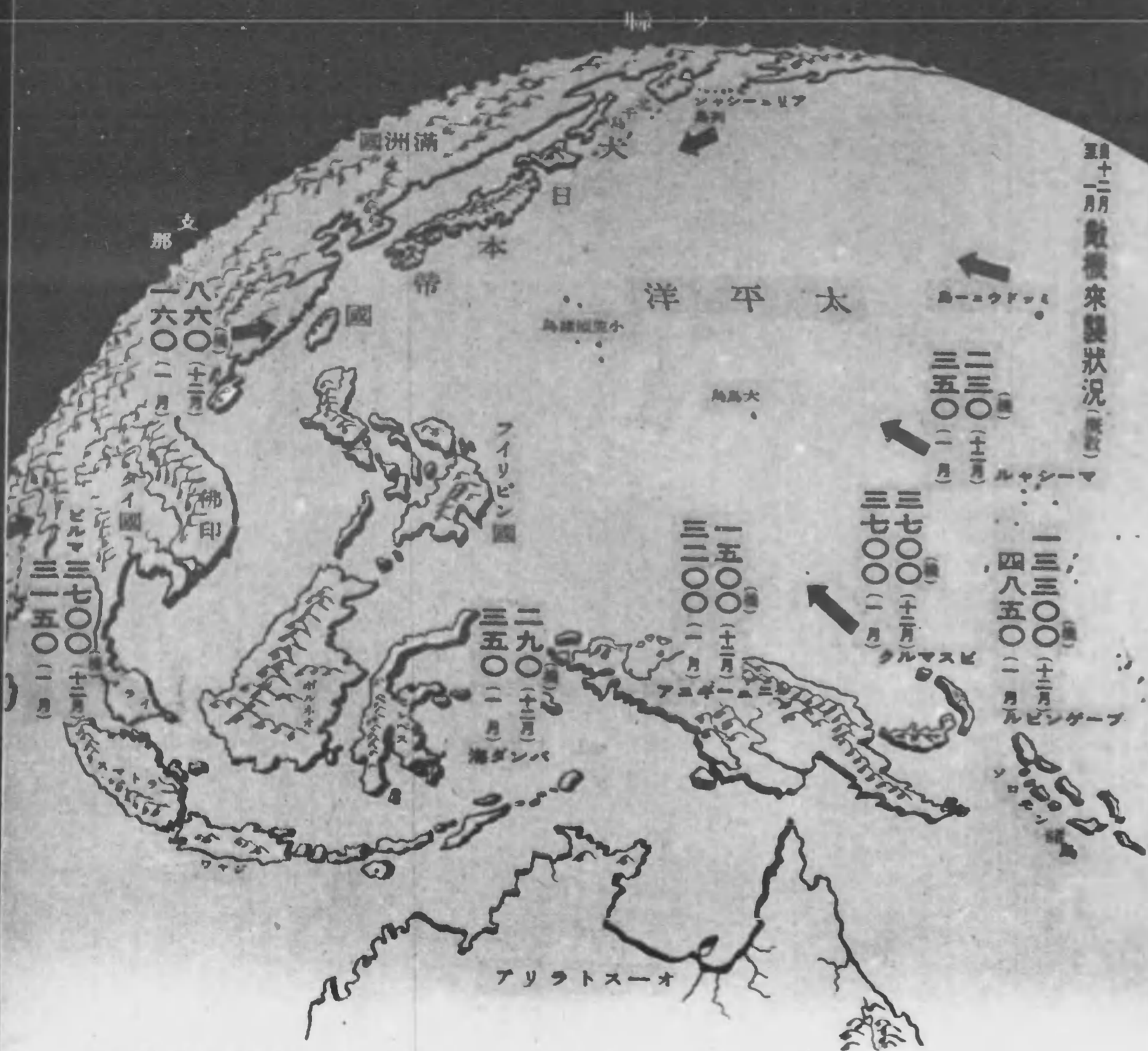
情 報 局 編 輯
二 月 廿 三 日 第 三 百 十 號



造れ、
送れ、
撃て



敵撃減に億一の翼博んか



敵、遂にマーシャル群島に上陸す。しかもラバウルに対しては一層攻撃を激化し、ギルバート、マーシャル、カロン群島に侵入し、北からラバウルを無力化せんとする現勢を露骨にするに至つた。

連日、戦線連合を以て来襲するマーシャル群島に、一日二百機以上が来襲するラバウルに、わが軍は連日激しい決戦をついでゐる。しかもこの決戦は敵の百機に我の〇〇機を以て戦はれてゐる。また三交代でたつぷり休息した敵搭乗員に對し、我は夜も寝も同じ搭乗員が出陣進軍しついでゐる。つまり敵の不足をわが將兵の血と肉で購つて來た。

『出動機数が現在の二倍三倍になれば、絶対に勝ちぬいて見せる』とは、軍に〇〇部隊長の言葉のみでなく、前線の全將兵が心境に燃した叫びなのだ。

しかし彼等の敢死その所を轉ずるのは決して困難ではない。既にその基礎は戦後敵の反攻の間に着々築かれた。企業設備もそのためだつた。紡績工場の轉用もそのためだ。機用も、女子挺身隊の組織も、みんな飛行機のためだ。あらゆる増産の布陣は成つた。忍苦と苦難の道は勝利の道を迎へんとしてゐる。

今こそ若いも幼きも國をあけて飛行機へ結集しよう。億一億で飛行機を造らう。その機が飛び立つ時こそ、學業半ばに征つた學藝がまっさかかけて敵機群を散らすであらう。倍の機数で敵の侵食を食ひ止め、三倍の機数で敵を断乎撃退するその成否は、一つに今日只今われらの努力と増産にある。

時立の札

昭和九年二月廿三日

お父さんは今日も三割増産だとはりきり
 お母さんは大根の葉でうまいおかずを作り
 おぢいさんは一坪庭園に馬鈴薯をうる
 おばあさんは小布を集めて足袋をつくり
 子供たちは寒くないぞと勇んで學校にゆく
 工員でなくとも飛行機をつくる道はある
 みんなが自分の持場に力一杯つくすことだ
 わたしたちの家庭も
 いはゞ飛行機工場の協力工場であり
 わたしたちは榮譽あるその工員なのだ

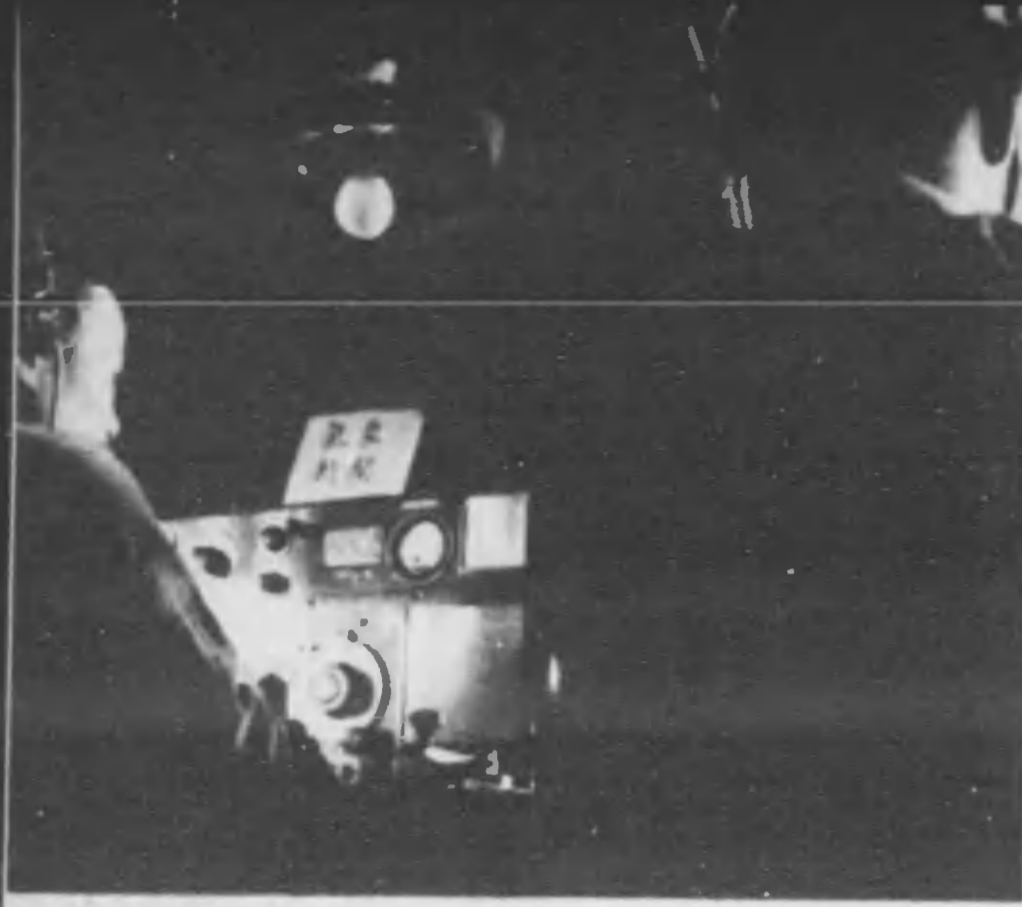
「時立の札」は、戦時下の世に、戦時下の世に...



このタイプの機体は、戦時中、日本の航空隊で広く使われていた。これは、戦時中、日本軍が南洋の島嶼に降参した際に、大分県から大分県へ運ばれた機体の一部である。



このタイプの機体は、戦時中、日本の航空隊で広く使われていた。これは、戦時中、日本軍が南洋の島嶼に降参した際に、大分県から大分県へ運ばれた機体の一部である。



前線の荒鷲は死闘に死闘



この写真は、戦時中、日本の航空隊で広く使われていた。これは、戦時中、日本軍が南洋の島嶼に降参した際に、大分県から大分県へ運ばれた機体の一部である。

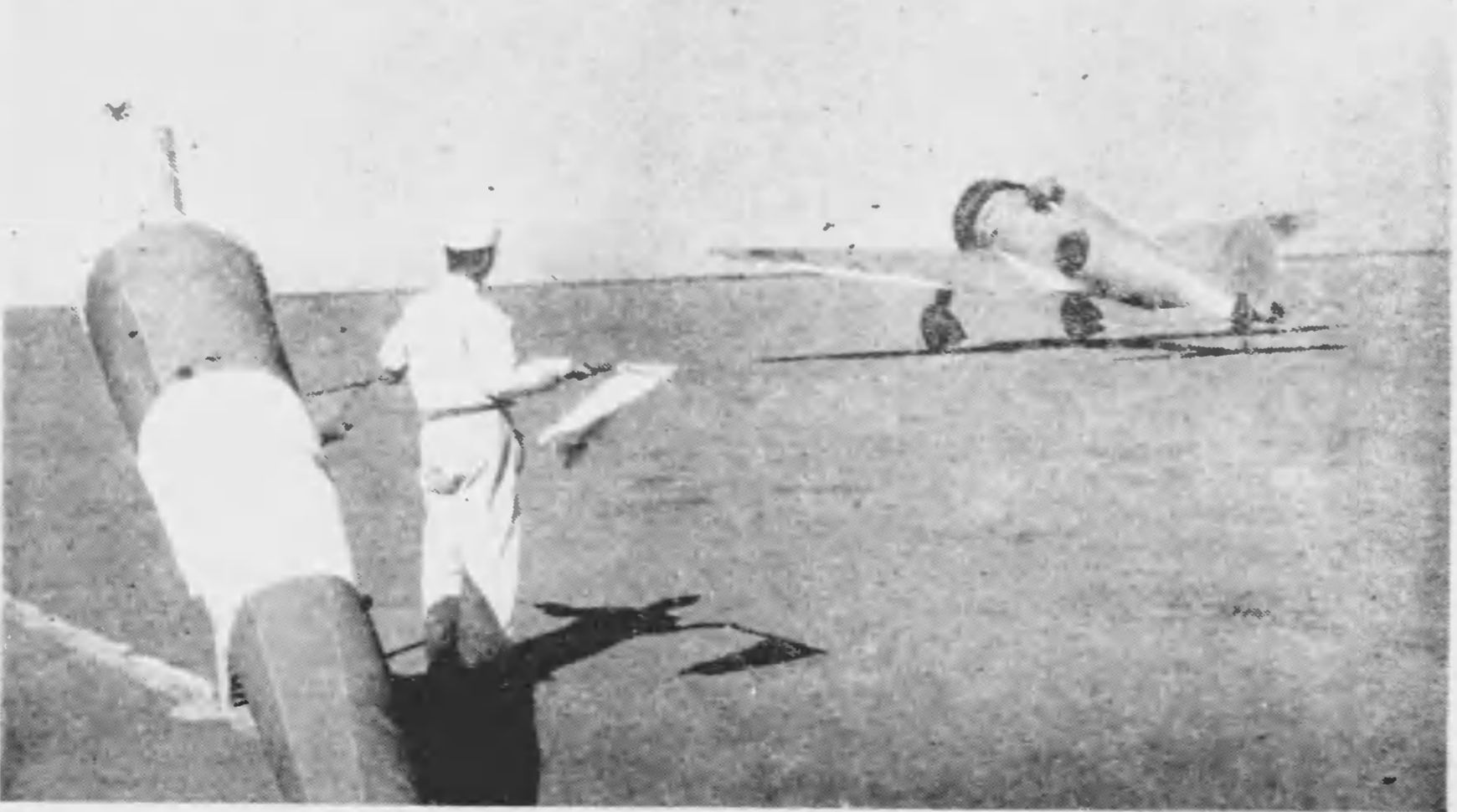
この写真は、戦時中、日本の航空隊で広く使われていた。これは、戦時中、日本軍が南洋の島嶼に降参した際に、大分県から大分県へ運ばれた機体の一部である。





↑ 正に空の
訓練中上

↑ 飛行機を
使つて
訓練する
飛行機は
空を飛ぶ
訓練は
空の上で
行ふ



航空隊の荒鷲は
実戦同様の訓練だ

↑ 機銃を使って、
教官のやさしい
指導

↓ いくつ回飛行
行つて出陣

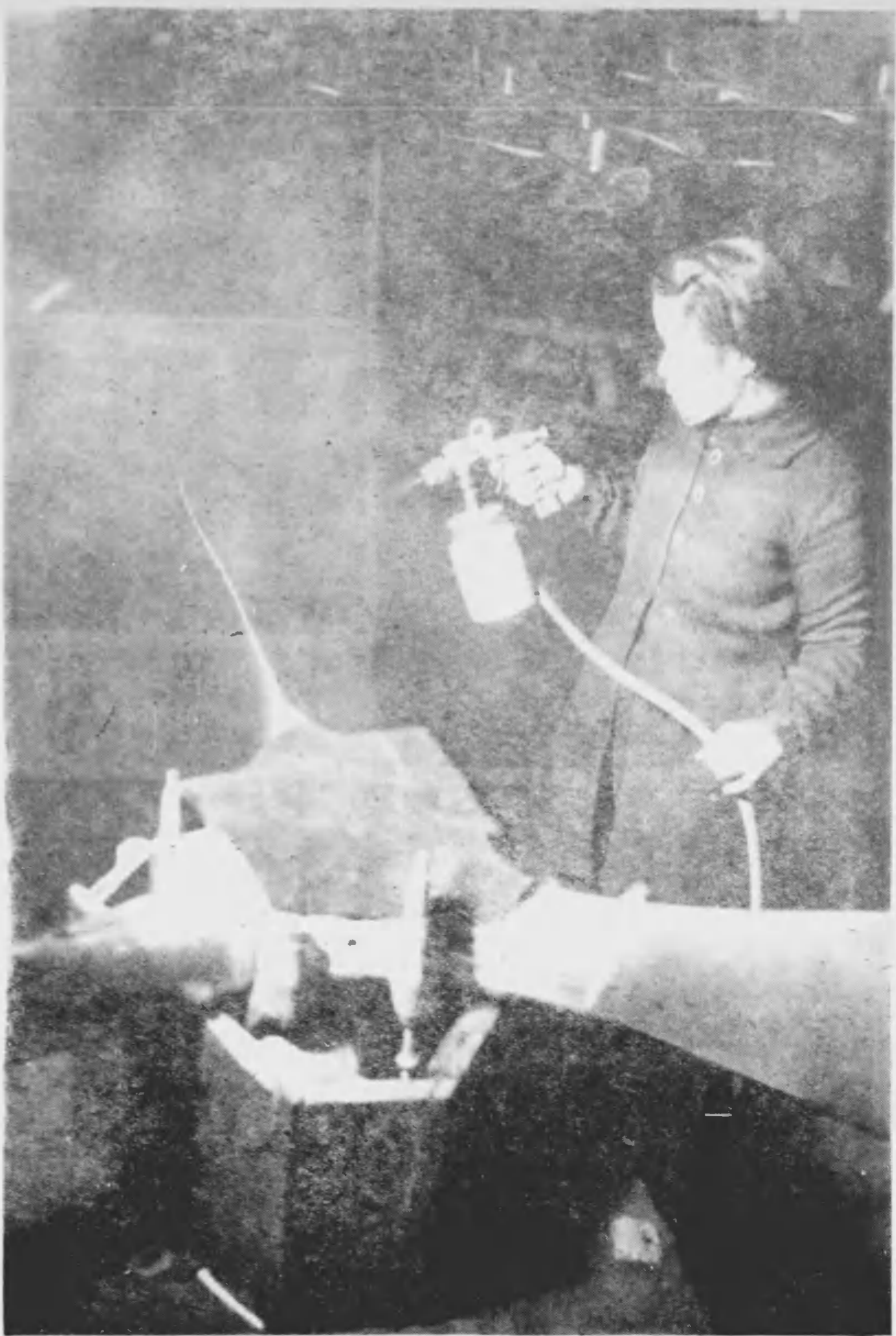
〇〇 航空隊

征くぞ、敵を
決して

本金の猛訓
練の合間に、若
い雄心をそゝる
のは、灼と輝く
南の雲、そして
霧氷にとざされ
た北の漢だ。撃
滅の闘魂をのせ
て大東照せまし
と羽搏く日が待
ちどほしい

さうだ、敵機
も待つてゐる。
運命を知らずに
船首を並べて待
つてゐる。黒煙
を吐いて機もみ
に落ちてゆく敵
機。おう、たま
らない魅力だ
征くぞ、愛機
は一値が造つて
くれる



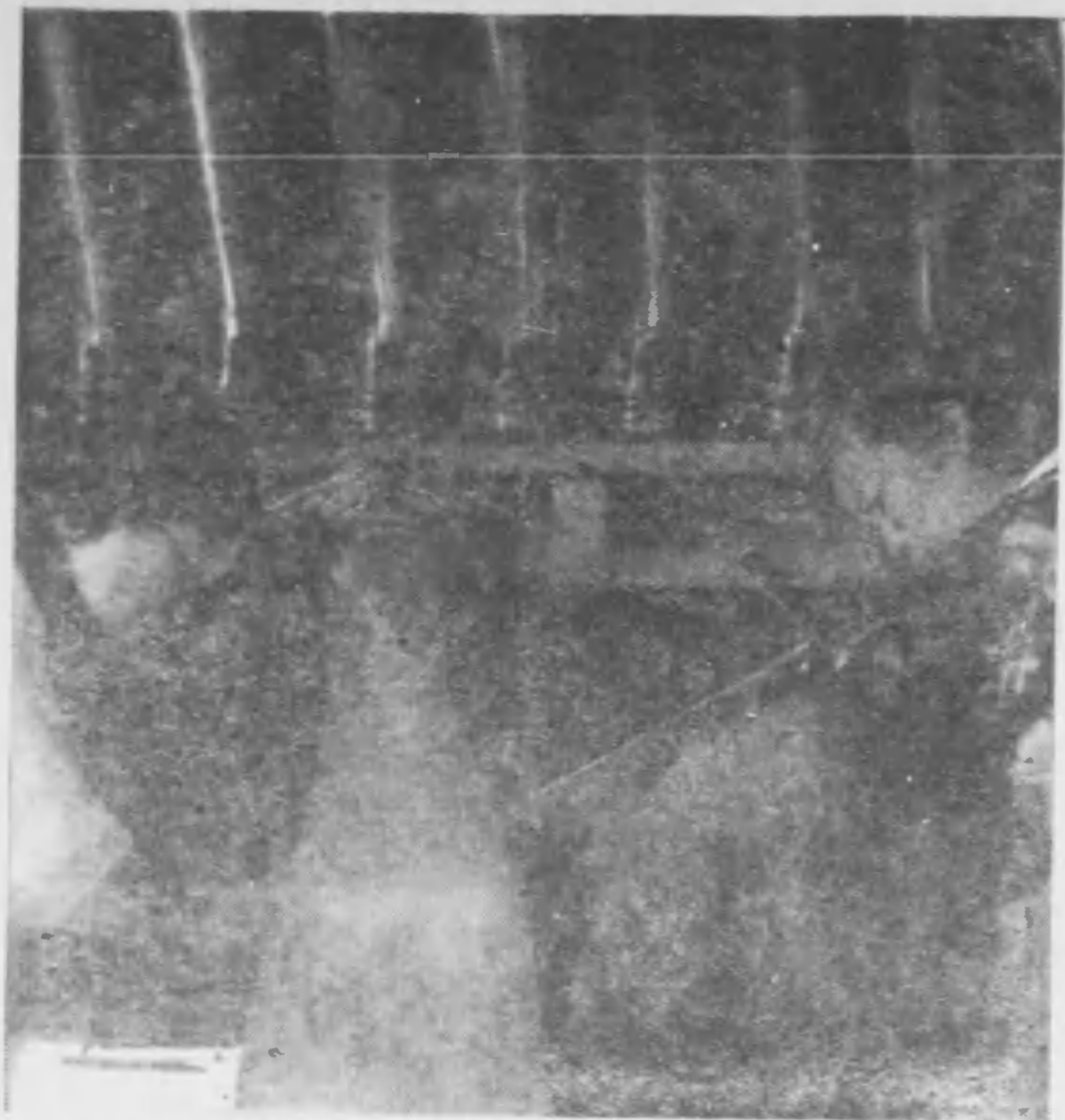


飛行機工場は晝夜兼行の増産だ

一臺の飛行機には、約三十万點くらゐの部分品が必要だといはれる。そのまか戦時に必要な諸兵器も考へに入れると、その量にさらに増す



航空機工場では、晝夜兼行の増産に努める。今日本国政府は、航空機を増産し、戦時体制に適合させることとす。



も場エラペロフ

所造製ラペロフ 業工属金友任

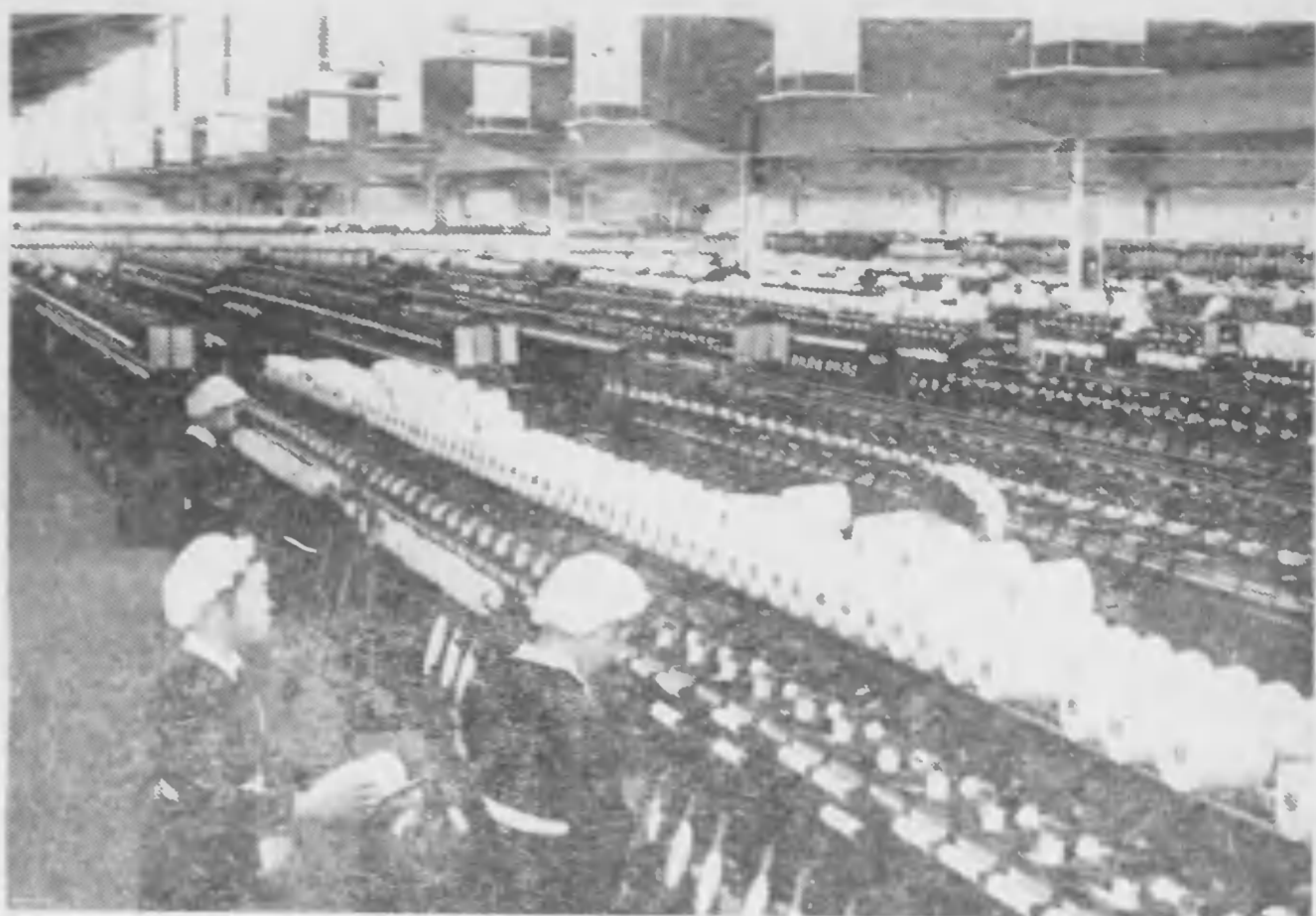
航空機工場では、晝夜兼行の増産に努める。今日本国政府は、航空機を増産し、戦時体制に適合させることとす。

これら實に膨大な数の部分品が、一つも缺けることなく有機的に完全に結びついて、初めて飛行機は生を得て空を翔けるのである。しかも勝つためには、鉄一本でも敵に優れてゐなければならぬ。あらゆる部分品を平行してより多く造らなければならぬ。かく考へると、飛行機の増産は、言ふべくして實に困難の業である。それには飛行機の増産を焦點に、一億の智力と忠誠心が鷲の毛で突くほどの間隙もなく凝集され、それが最高度に發揚されることが必要なのである。

飛行機は何で作るか

飛行機の構造を分詳すると、次のやうな部分に分れる。

- 一 動力装置
 - 1 フロペラープロペラ 取付装置、プロペラ軸、ピッチ調整装置、減速装置
 - 2 發動機—發動機本體、氣筒（氣筒頭、氣筒筒、氣筒襯、ピストン（ピストン、ピストンリング、ピストンピン）、連桿、曲軸、磁室、磁室カム、連桿桿、曲軸、主軸承、曲軸室、燃料補給系統、燃料ポンプ、燃料管、酸化管、噴射器、磁石發動機、電機、点火機、潤滑油ポンプ、潤滑油冷却器、發動機始動装置、發動機調整装置、排氣管、消音装置
 - 3 液冷用放熱装置及、液冷用發動機水套（これは液冷發動機のもの）
- 二 機體
 - 1 主翼—主翼前翼、副翼、襟翼、縫道
 - 2 補助翼、翼小骨、前翼、後翼、各種補助翼、各種取付金具、張線
 - 3 胴體—胴體本體、機頭材、外皮、尾翼—水平及び垂直安定板、昇降機、方向舵、尾輪または尾輪機
 - 4 起落装置—起落機、起落機、浮舟
- 三 降着装置
 - 1 支柱
 - 2 緩衝装置
 - 3 引込装置
 - 4 車輪または浮舟
- 四 一般機装
 - 1 操縦装置—操縦桿、踏踏、水下手、定速油機、目視器等
 - 2 座席装置
 - 3 計器装置—速度計、高度計、昇降計、旋回指示器、水準儀、指針器、氣流速度計、機方向轉計、發動機回轉計、吸入壓力計、燃料油壓計、潤滑油計、空壓計、潤滑油温度計、油質計
 - 4 航法装置—飛行時計、羅針盤、航



飛行機工場は昼夜兼行の増産

紡績からの轉用工場も

近江航空工業〇〇工場

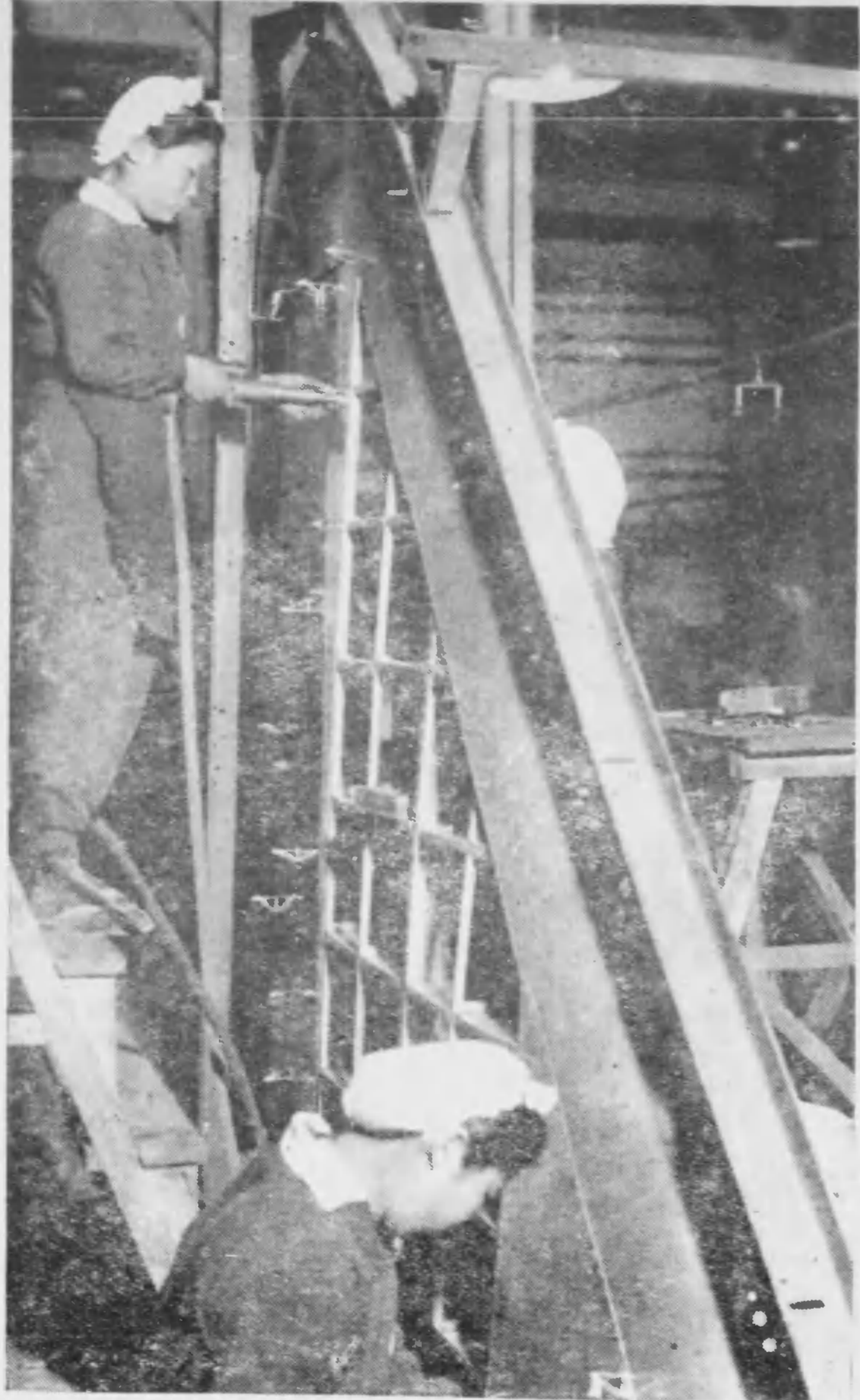


この工場は、戦時体制下で、従来の紡績工場から航空機部品製造に転じた。この工場は、戦時体制下で、従来の紡績工場から航空機部品製造に転じた。



この工場は、戦時体制下で、従来の紡績工場から航空機部品製造に転じた。この工場は、戦時体制下で、従来の紡績工場から航空機部品製造に転じた。

この工場は、戦時体制下で、従来の紡績工場から航空機部品製造に転じた。この工場は、戦時体制下で、従来の紡績工場から航空機部品製造に転じた。



この工場は、戦時体制下で、従来の紡績工場から航空機部品製造に転じた。この工場は、戦時体制下で、従来の紡績工場から航空機部品製造に転じた。

- 1 材料加工—木工、材料切取、壓延、鋳造、機械加工、鍍金加工、仕上げ加工、管加工、管接、鍍金、熱処理等
- 2 集成部品組立—各単一部品を組み立てて集成部品を製作する。銲接、管接等の作業を伴ふ。
- 3 部品組立—主翼、胴體、尾翼、補助翼、降着装置、發動機等をそれぞれ別に組立てる。
- 4 羽布織—主として木製機等の場合、機體表面に羽布を縫ひ付ける。
- 5 塗裝—油氣、光、熱等の影響を避け、各部品の耐久性を増すため、また迷彩のため各種塗料を塗る。
- 6 総合組立—一切の所要部品を綜合・組立・装置して一機に完成する。

一 機體部門

- 1 機體加工—旋盤、フライス盤、ボール盤、中ぐり盤、研磨盤、その他特殊精密工作機械により鋼合金または合金鋼で作られた機體部品を加工する。
- 2 表面加工—鍍金（銅、錫、ニッケル、クロム）、アルマイト、塗料、希塗料の塗付。
- 3 熱処理—焼鈍により素材の加工をたやすくし、焼入、焼戻など部品素材の機械的性質を向上せしめる。
- 4 鑄造作業—主として鋼製部品につき加工を除去する。
- 5 部品組立—氣筒、連絡桿、曲軸、減速装置、過給器、油泵等に關聯する部品を集成組立て、各種集成部品を作る。
- 6 鍍金作業—鋼合金液、銅鍍を機體として吸入管、排気管、導風管等をつける。
- 7 管加工—鋼管の加工が主で、燃料管等を作る。
- 8 銲接作業—管類その他部品の一般銲接作業。
- 9 總組立作業—部品組立により各機分毎に集成組立てられた集成部品を一定の順序で組立調整し、完全な發動機とする。

二 發動機部門

- 1 聯合企業中プロペラ組の製作は大抵の場合に製造され、専門協力工場に委託されること多い。木製プロペラは外注品も社内工場で作られること多い。

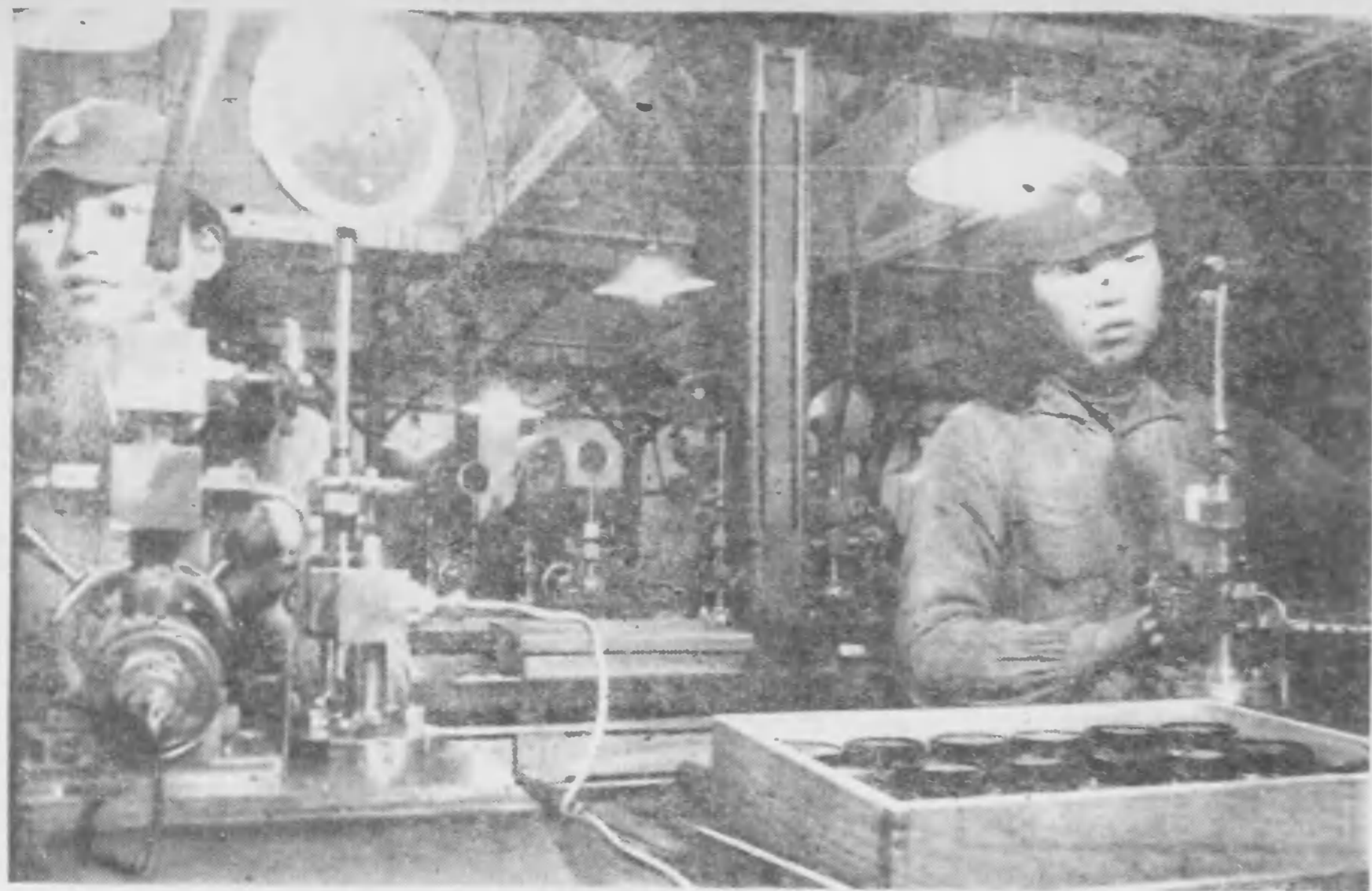
三 プロペラ部門

- 1 發動機保護補器類（氣化器、各種ポンプ、航空用磁石發電機、点火栓、始動装置、過給器等）、各種航空用計器類、通信装置、電氣設備を始め、軍用機では更に各種兵裝等で、それぞれ特殊部品を専門に製作する工場から供給される。これらはまた單獨に組立てられた部品として製作されるので、特殊部品製作はこれ自體獨立した工場で行はれることが多い。

四 特殊部品製作部門

- 1 簡易な単一部品はその形、数によ

五 一般部品製作部門



航空計器工場
航空計器工場
航空計器工場



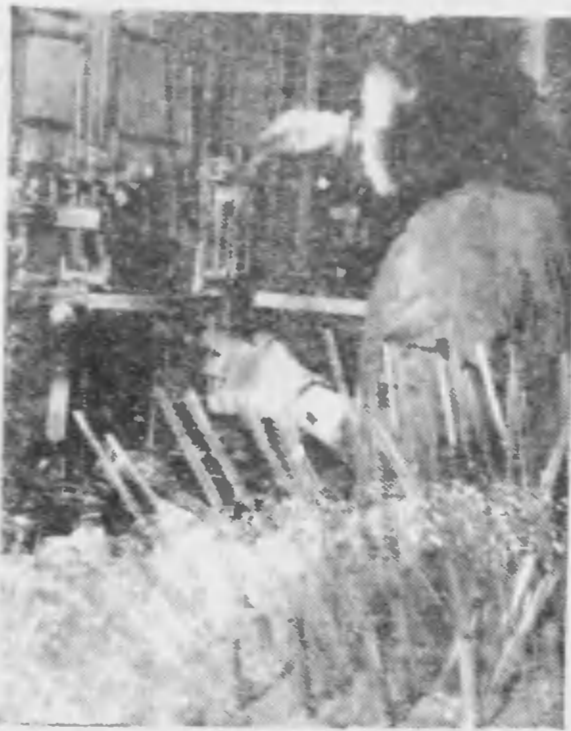
飛行機工場
航空計器工場

航空計器工場

航空計器工場
航空計器工場

航空無線工場

航空無線工場
航空無線工場



飛行機工場
航空計器工場

航空無線工場
航空無線工場

航空計器工場
航空計器工場



機銃工場 弾も銃場

弾がなければ、飛行機は燃焼
 りするよりほかない。飛行機
 の増進もさることながら、敵
 の喉に弾を造らう。射つ
 て射つて射ちまくる戦況は弾
 薬で増進だ。



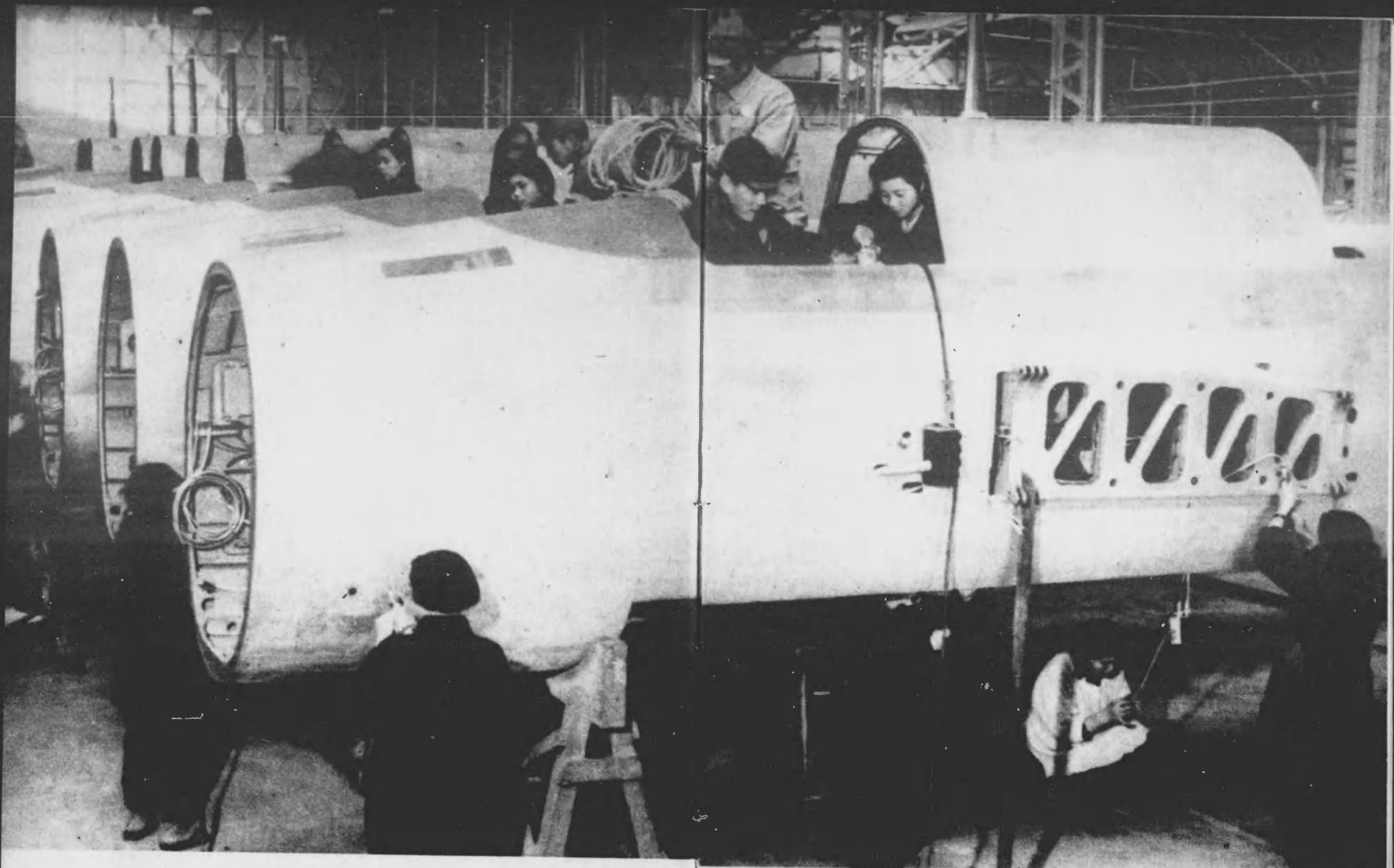
飛行機工場に働く女性の生活

陸軍造兵廠

1. 陸軍造兵廠に働く女性の生活
 2. 陸軍造兵廠に働く女性の生活
 3. 陸軍造兵廠に働く女性の生活



される。燃焼分解、液状化ガソリン
 (ガソール、揮発油、軽油から採
 取される)、水素添加ガソリン(燈
 油、重質ナフサ、石炭ガゾ
 ルを原料とする)
 2. 混合燃料とは揮発油に混合し
 て、その割合を向上せしめる燃料
 である。その主なものはイソペン
 タン(天然ガスから採取される)、ネ
 オ・ヘキサン(石油分解ガスその他
 副生ガスを原料とする)、イソ・オク
 タン(同前)
 3. 揮発油に少量の添加して
 揮発性を高める。向上させるもの
 である。14. エチルアルコール(液状青色
 に着色)はその揮発性を表示する。を
 主として用いる。このとき、臭化エ
 チレン液を加えて揮発性による腐蝕をの
 ぞく。



飛行機工場は昼夜兼行の増産

組立工場も

川崎航空機工業100工場

今国会でも東條総理は「女子の徴用は行はない」と言明された。その信頼と親心にあな方は背いてはならない。女子挺身隊は激しい戦ひのさ中に、日本女性の愛國心のみを頼りに生れ出たのである。女子挺身隊が遍しい成長を遂げ日本女性の歴史に一層の光彩を加へ

るか否かは、願つてあなた方の双眉にある。見よ！お友達は既に戦列について居る。その打撃器と取組む男々しさにあふれた美しさを



飛行機工場は昼夜兼行で製作

レンズ工場も 日本光機工場

敵機を木ッ葉微塵と砕く爆撃機は、少女の手でレンズを貼り合はれて出来上つてゆく

焦点を合せて検査する女子工員の心算に添うるのは、マーシャルの死闘だ。いざさらん大盤の兵器を

レンズの研削は、一人で鏡面かを受持つて増産へ専進だ。目のまはる忙しさも敵機思へば何のこれしき



★激戦

この若い進志は今〇〇海軍航空隊で訓練員として訓練中なのではない。つい二年ばかり前までは新鋭機と闘った〇〇大尉副官である。訓練も文字通り苦闘さながらの訓練期間である。一機で敵の敵機を相手にしてそのことごとくを九、九降すのが海軍の訓練である。〇〇航空隊の訓練ももうあつたか、海軍の心はすべし、マーシャルの空を、ラスワルの空を舞けてゐる

〇〇海軍航空隊



映画 八咫

情報局指定国民映画 文部省推薦

あの旗を 撃て

東宝作品

本映表は、最前線の日比谷國傳機共演映表で、長年に互り現地出張撮影の下に完成されたものである

敵軍の比島作戦を背景に、敵米海軍軍に開戦の或る比島人將校とその軍旗の人々が、米軍の兇害の非道極まる残酷さを見、フィリピン人の旗の敵は米國なることを悟り、敢然、米軍に協力する物語を主題に描いたもので、米軍の偉大なる威勢精神と果敢なる作戦を如實に表現し、國民士氣を鼓舞するものとして國民必見の映畫である



照準十字

小泉 嘉郎
藤田 泰
大映 映
松本 健
主演

これも飛行機をつくる道



戦時 空戦兄弟 第4巻 種々怪一(四)

寫眞週報 昭和十九年二月廿三日 印刷部發行

兵站基地滿洲



開拓地ノ朝

南滿洲鐵道株式會社

大陸旅行のお問合せは
滿鐵鮮滿支案内所へ

- 東京 東京都麹町區有樂町一番地ノ二帝國生命會館内
- 大阪 大阪市東區堺筋安土町二丁目
- 名古屋 名古屋市東區榮町三ノ一
- 敦賀 敦賀市津内町一〇四號字白銀町三ノ八
- 門司 門司稅關前
- 長崎 長崎市萬屋町七九
- 下關 下關驛橋内山陽ホテル前
- 福岡 福岡市下小山町一二
- 新潟 新潟市古町通六番町九五九
- 札幌 札幌市北二條西三丁目一番地

印刷局印刷發行

本誌を回覧に
本誌を、隔組や職場
で回覧する等、出
來もだけ有効に御利
用下さい。
前線慰問にも
またお読みになつた
ら本誌を前線慰問に
送りませう。送料は
内地と同様で封封あ
るひは封封にして第
一部一錢です。

本誌掲載の寫眞中、攝
影者名或は提供者名
を特記し附してある
のは財団法人寫眞協
会の製法によるもの
の製法によるもので
又、海軍省承認の五
二四二號です。

所 込 申	價 定
全國各地官報 週報普及部 分發所 書店・雜貨店 新聞販賣店	<p>▲(送料一錢) 外埠郵送は依 其一部は送料 共一圓十九錢 其の都度御持 受より差額を込 金より差額を込 受けます。</p>

昭和十九年二月
廿三日 印刷發行
編輯部
情 報 局
東京 東京都千代田區
水田町一丁目一
號印刷部
印刷局
東京 東京都千代田區
大手町

寫眞週報
(禁無斷轉載)

(内封紙裏)A4所載定額はより大の書本)